

作成番号:0196

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2024-196

\*\*\*\*\*

内容:今後 30 年間に世界の平均寿命は4~5年延長する。

出典:Burden of disease scenarios for 204 countries and territories, 2022-2050: a forecasting analysis for the Global Burden of Disease Study 2021.

Lancet (London, England). 2024 May 18;403(10440):2204-2256.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38762325/>

\*\*\*\*\*

世界全体で平均寿命は2022年から2050年にかけて何歳延びるか、最新の分析結果を、世界疾病負担研究(GBD)の研究者らが、The Lancetの5月18日号に発表した。

204の国と地域、21のGBD地域、7つのスーパーリージョン、および世界全体の2022年から2050年までの原因別死亡率、損失生存年数(YLL)、障害生存年数(YLD)、障害調整生存年数(DALY)、平均寿命、および健康寿命(HALE)を予測した。その結果、世界全体で平均寿命は2022年から2050年にかけて73.6歳から78.2歳へ延びると予測された。男女別に見ると、男性では71.1歳から76.0歳へ4.9年の増加、女性では76.2歳から80.5歳へ4.2歳の増加であった。また、同期間に健康な状態で生きる年数(HALE)は、男性では62.6歳から66.0歳へ、女性では64.7歳から67.5歳へ延びると予測された。さらに、全体的な平均寿命の延長に加え、地域間の平均寿命の格差が縮小することも予測された。

今後30年間に世界の平均寿命は男性では5年近く、女性で4年以上延長し、こうした平均寿命の延長は、一般的に平均寿命が短い国々で顕著であった。このような変化は、心臓病や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に加え、感染症や出産、栄養に関連するさまざまな健康問題の予防と発見、治療の改善をもたらした公衆衛生対策によるところが大きい。

